

「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部
創立10周年に寄せて

⑤

私は現在大船渡市に住んでいます。県立住田高等学校に勤めて四年になりました。今年で三十三歳になりますが、これまで五葉山の名前は聞いたことがあるものの、実際に足を踏み入れたことはありませんでした。

昨年度、本校の学校行事「地域文化選択講座」の五葉山コースに参加し、五葉山の素晴らしさを知ることができました。本校の「地域文化選択講座」は、普段教室では学ぶことのない地域の文化・産業や伝統技術などについて学び、地域についての関心を高めることを目的として実施しています。

この講座には住田町立世田米、有住両中学校の三年生やオーストラリア留学生とともに活動する行事で、他の高校にはみられない大変特色のある学校行事です。

この地域文化選択講座には、五葉山森林公園森林浴のほか十三講座あります。地元の方を講師としてお招きし、生徒達はそれぞれ自分の好きな講座に参加します。いつも

の授業では消極的な生徒たちですが、この日は目を輝かせ活発に活動し、普段見られない表情をみせてくれる行事です。

昨年九月十九日の水曜

目に行われた地域文化選択講座で、私は二十名の生徒とともに五葉山森林公園森林浴に参加しました。道中のバスの中では五葉山についての事前学習が、講師の千葉修悦さん(五葉山自然倶楽部事務局長)と紺野寿美さん(国有林巡視員)によって

到達できることが漁師の技術の高さを示すこと、五葉山への道が雨で流されないよう紺野さんが管理していることなどを聞きました。

場所五葉山の空気、音を感じることが出来るネイチャーゲームをしました。樹木と樹木の間に二十センチほどロープを張り、タオルで目隠しをして一人ずつロープ沿いに歩くというものです。

鳥の鳴き声、風で葉が揺れる音、歩くときに枝が折れる音など良く聞かえてきました。森と一体化したような新鮮な気持ちになりました。

うことに驚き、五葉山の素晴らしさを感じました。生徒達は改めて古里を大切にしなければならぬと思ったようです。この身近にあって、この五葉山を守っていくこと、五葉山森林公園森林浴を担当し、五葉山の魅力を体感。地域に誇りを持つこと、自然を守り、大切にすることが地域への愛着や誇りを育んでいることを実感した。

伝えたい五葉山の魅力

～住田高校地域文化選択講座～

大船渡市大船渡町 小野寺 優

て進められました。

バスの中では五葉山の名称の由来、仙台伊達藩の資源が豊富な山であったことから、かつては

さを含めて感じていたようです。ヒノキの樹皮は叩くと布のようになり、火縄銃の火縄に加工され利用されていたことを、

樹木の胸高直径からその年齢を推定する方法も学びました。測定したブナの大木の胸高直径は約一メートルありました。一年に四センチずつ太くなるので、この木は約二百五十年も前からそこに立っていることが分かりました。

「御用山」と呼ばれていたこと、五葉山にはサル、シカ、クマが生息できるほど自然環境が良いこと、五葉隠し(五葉山が見えないほどの沖合)に

登山道を歩いているとクマの爪跡を見ることができました。やや開けた

を後世に伝えていきたいと思っています。【執筆者プロフィール】関市出身、三十三歳。住田高校教諭。十九年度地域文化選択講座の一つ



目隠しをしてロープを頼りに歩を進める「サイレントゲーム」。森との一体化が貴重な体験に